

# 相馬の磯部地区 震災後初の盆踊り

## 輪の踊り 強める絆

東日本大震災の津波で大きな被害を受けた相馬市磯部地区の盆踊り大会は十六日、磯部



震災後初開催となった磯部地区の盆踊り大会で踊りの輪を広げる住民

中で開かれた。地区住民が避難生活を送る柚木仮設住宅で

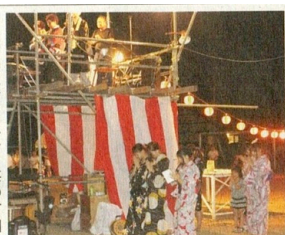
開いたことはあったが、震災後初めて、地域全体の盆踊り大会として復活開催した。従来と同様、成人を目前に控えた若者で構成した「盆会」が運営に当たり、同地区出身の星歩美さん（二九）仙台高専五年生が実行委員長を務めた。三年ぶりの開催とあって地元住民らが避難先などからも参加し、やぐらを囲んで踊りの輪を広げた。記念品が当たる抽選、ゲスト民謡歌手による演奏披露などもにぎやかに繰り広げられた。踊りに先立ち、震災犠牲者の追悼行事があり、僧侶による読経の後、参加者全員で黙とうをささげた。磯部地区の大橋富寛区長会長（六七）は「かつてのように皆で集い、開催していければ」と交流する場として継続期待した。

福島民報 2013年8月18日

### 3年ぶり盆踊り

相馬・磯部地区

相馬市沿岸部の磯部地区で3年ぶりとなる盆踊りは16日、磯部で開かれ、地域住民らが楽しいひとときを過ごした。



震災犠牲者を思い、海の方角に黙とうする参加者

者が実行委員会をつくり開催していたが、東日本震災の津波被害で開催が見送られていた。

今年は、若者が頑張るところで地域に元気を取り戻そうと、星歩美さん（19）を実行委員長に7月から準備をスタート。後輩にも協力を呼び掛け、準備を進めてきた。

会場では、ビンゴやクイズ、じゃんけん大会のほか震災犠牲者を弔って黙とうがささげられた。仮設住宅や借り上げ住宅に避難している人たちも集まり、やぐらを囲んで踊りの輪が広がった。

星委員長は「開催すべきか迷ったこともあったが、多くの人たちが集まってくれて良かった。来年以降も後輩たちには引き継いでほしい」と話した。

福島民友 2013年8月18日